

基本

-cmatch 演算子と特殊変数 \$Matches。

-cmatch は演算子であり、ブール値を返す。

< 文字列 > -cmatch < 正規表現文字列 >

-cmatch 演算子は、マッチしたかしなかったかを True / False で返す。

後方参照は \$Matches 特殊変数で参照可能。キーが数値、値がマッチした文字列というハッシュテーブル。

キー 0 にはマッチ部分全体が入っている。以降、1 個目、2 個目と後方参照文字列が入っている。

正規表現にマッチしないことを検出する演算子として、-cnotmatch がある。

落とし穴

-match、-notmatch 演算子を使うと大文字と小文字を区別しないので注意！！最初はこの仕様腐していたが、意外にも、大文字小文字の区別をしないでちょっと正規表現マッチを使いたい場合には確かに便利。

\$Matches

\$Matches には、直前の正規表現マッチで True だった場合の結果が入っている。False のときに、\$Matches が自動的にクリアされるわけではないので注意。

\$Matches のクリアは下記のように明示的に行う。

```
> $Matches.Clear()
```

PowerShell のハッシュは存在しない値を参照しても、エラーにはならない。\$null が返るだけなので注意。

\$Matches が空の場合は \$Matches.Count が 0 を返すのでそれとわかる。